

2016.6月

熊本地震アレルギー患者・災害弱者支援活動
(2016年4月14日～5月20日)

—熊本の震災支援と東日本大震災—

NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

熊本での地震発生・・・2016年4月14日

(状況調査開始)

日本小児アレルギー学会と情報交換

NPO、食品企業、過去の連携先等との情報交換

被災地域への告知ポスター作製・告知開始

・・・・・・・・・・4月15日

本震・・・・・・・・・・4月16日

熊本医療センターに物資搬送・・・4月17日

(エコリス新潟との連携)

熊本の震災支援始動

アレルギー用・

1型糖尿病用の

物資を無料で
送ります



被災した患者・家族の皆様
まずは**ご相談ください**

アレルギー



食物アレルギー・ぜんそく・アトピー性皮膚炎

食物、ネブライザー、
ケア用品など



Tel ▶
03-5948-7891

E-mail ▶
info@atopicco.org

HP ▶
http://www.atopicco.org

NPO法人
アトピッ子地球の子
ネットワーク

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田
1-9-19-207



twitter

1型糖尿病

ブドウ糖など



Tel ▶
0952-20-2062

E-mail ▶
info@japan-iddm.net

HP ▶
http://japan-iddm.net

NPO法人
日本IDDM
ネットワーク

〒840-0823
佐賀県佐賀市柳町4-13



twitter

*お問い合わせの際には必ず名前（フルネーム）と電話番号をお知らせください

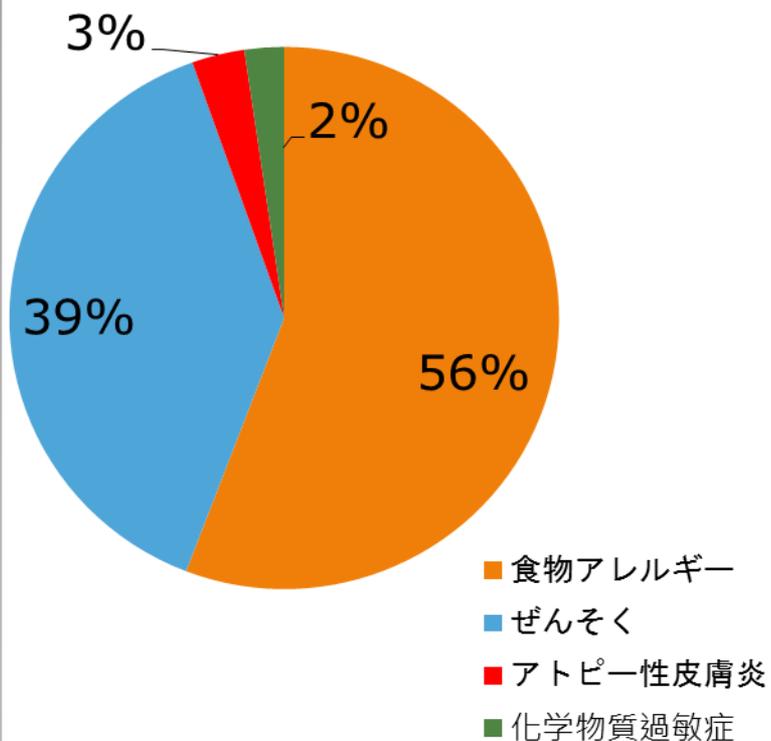
2016年4月現在

4月17日～5月20日熊本震災支援

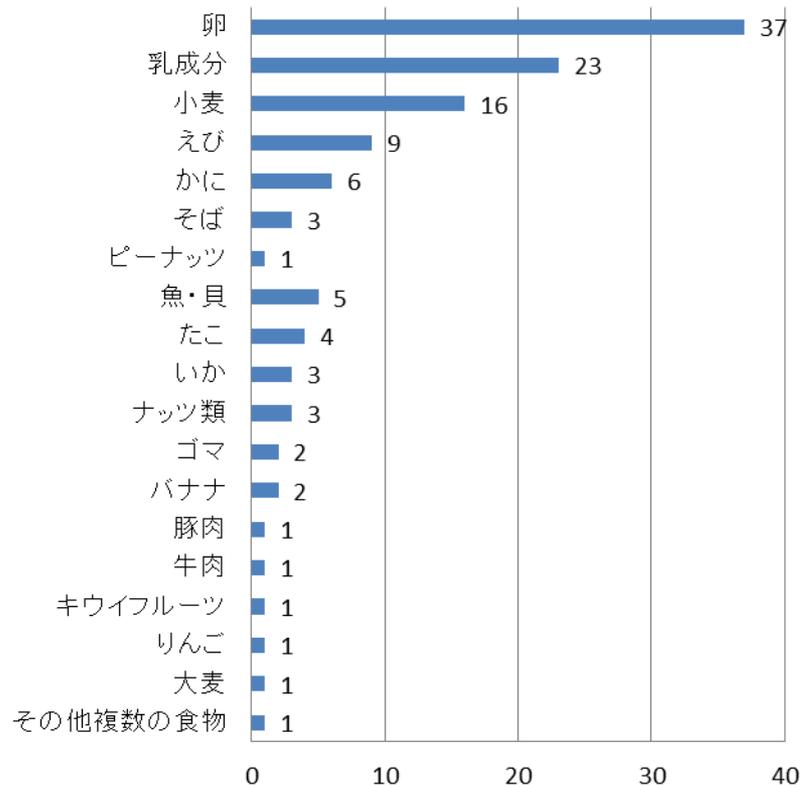
- 日本小児アレルギー学会の今期会長、震災支援担当医師らと打ち合わせ、基幹病院である熊本医療センターに物資搬送を行うことになった。
- 病院の半数以上が診療を中止しているため、患者が医療センターに集中したため、物資搬送をひかえ、保育園、村役場の栄養士等と連携を図り物資を搬送した。
- 救援依頼の電話があった個人の居場所へ物資を搬送した
- 4月17日以降ボランティアドライバーを配置し、宅急便のおおよその再開まで搬送を継続した。
- 4月29日以降は宅急便で個人の居場所に届けた。

4月17日～5月20日熊本震災支援

救援依頼・疾患の種類



救援依頼・アレルギー食物



4月17日～5月20日熊本震災支援



- 物資1回搬送 72人
- 継続支援を求める人含む
延べ人数 約160人
- ネブライザー 7人

- 病院1カ所2回
- 保育園6カ所各2回以上
- 村役場1か所2回
- 避難所よりも車中泊の
人がとても多い

4月17日～5月20日 熊本震災支援



熊本震災支援

- 最初の10日間は、
- 加熱せずそのまま食べられるものを送った。
- カセットコンロとミネラルウォーターを使って調理している保育園に、加熱調理用のビーフン、ライスパスタなどを送った

←4月17日搬送開始
病院、個人の居場所、
保育園など

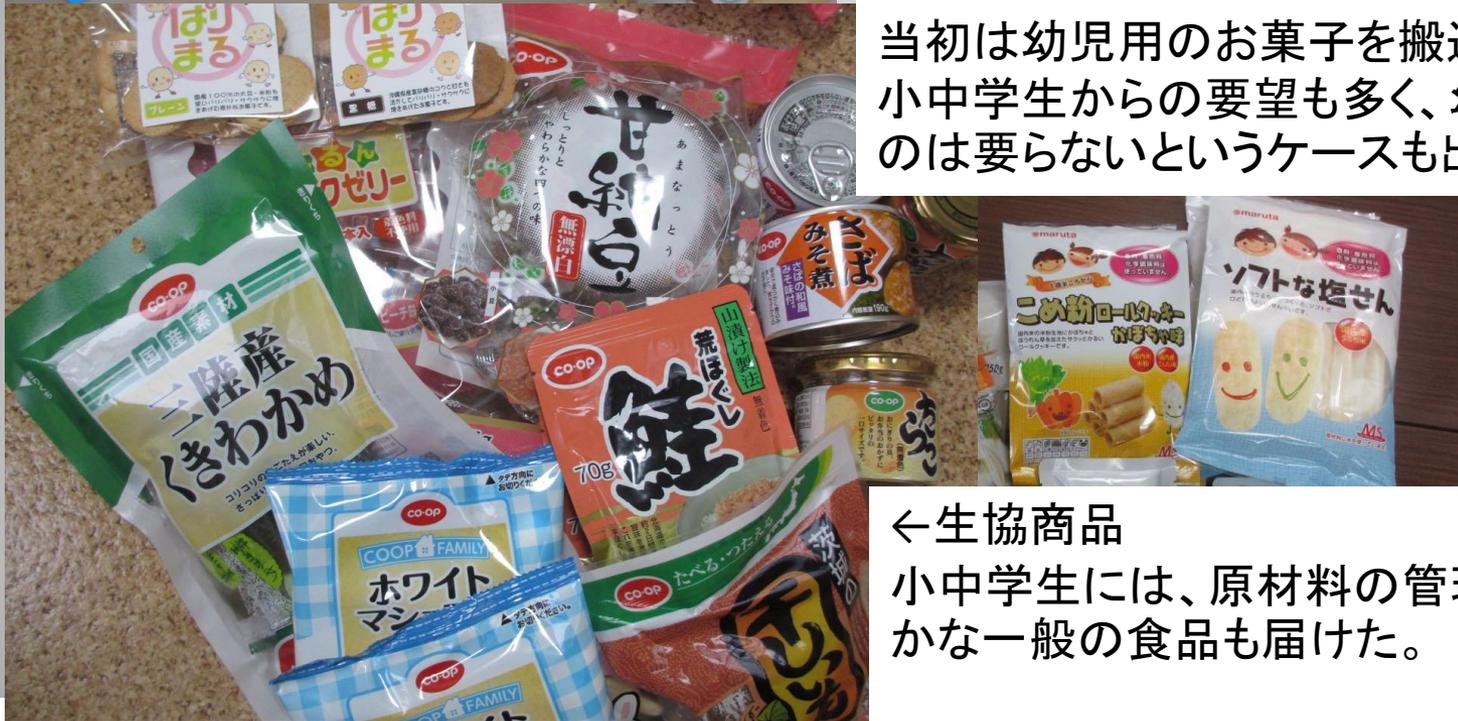


←保育園の調理用

熊本医療センターには個人がものを取りに行くので、保育園は取りに行くのをやめようという申し合わせをしたのだということだった。

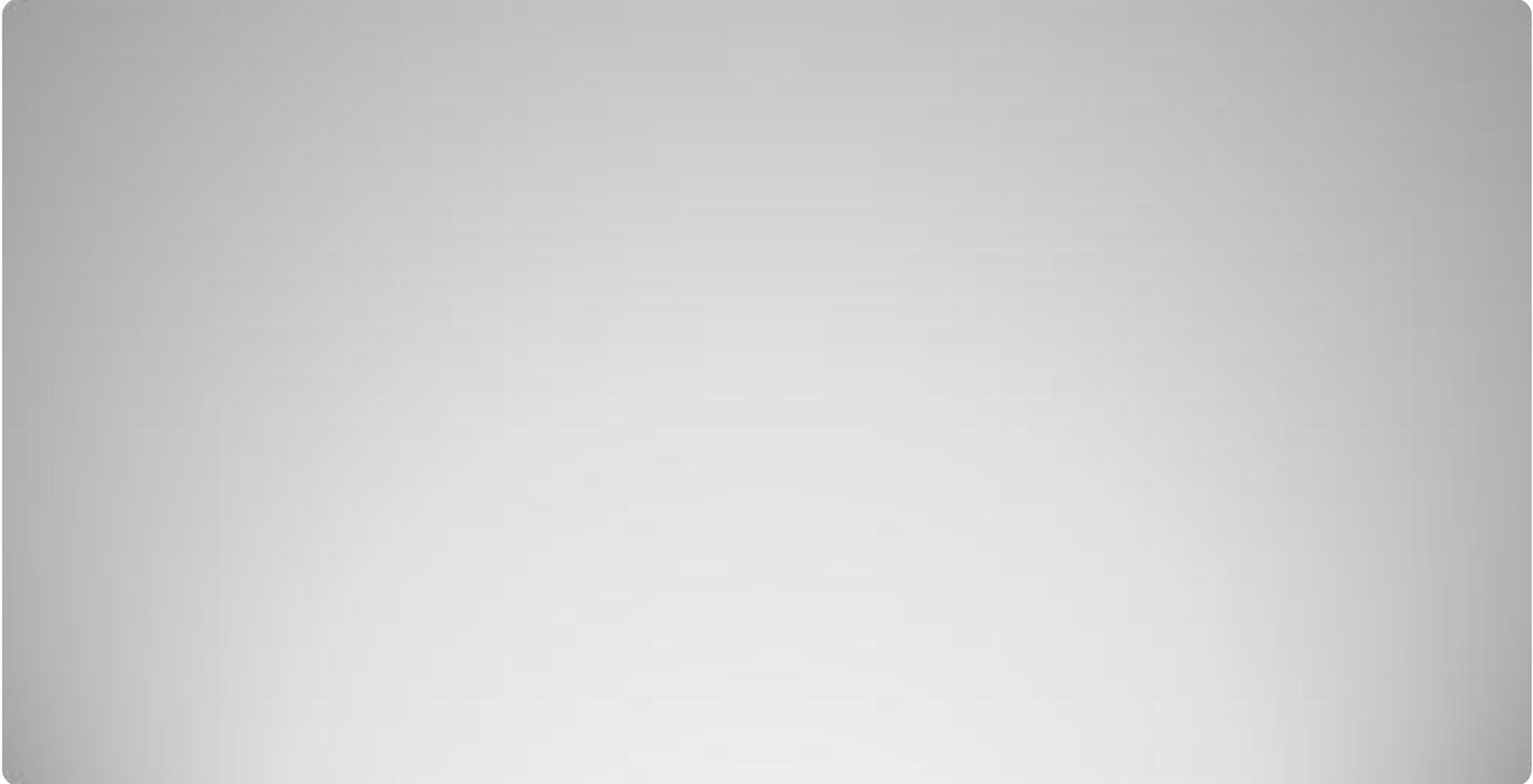


当初は幼児用のお菓子を搬送したが、小中学生からの要望も多く、幼児用のものは要らないというケースも出てきた。



←生協商品

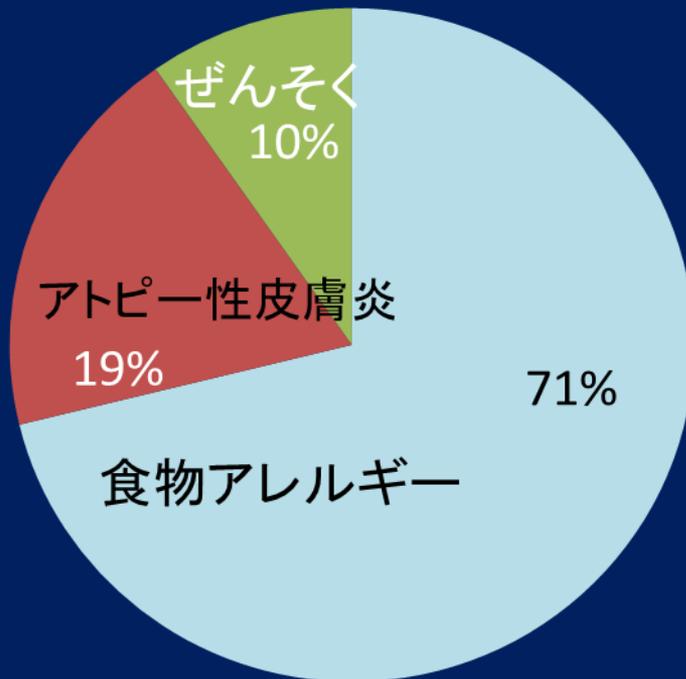
小中学生には、原材料の管理があきらかな一般の食品も届けた。



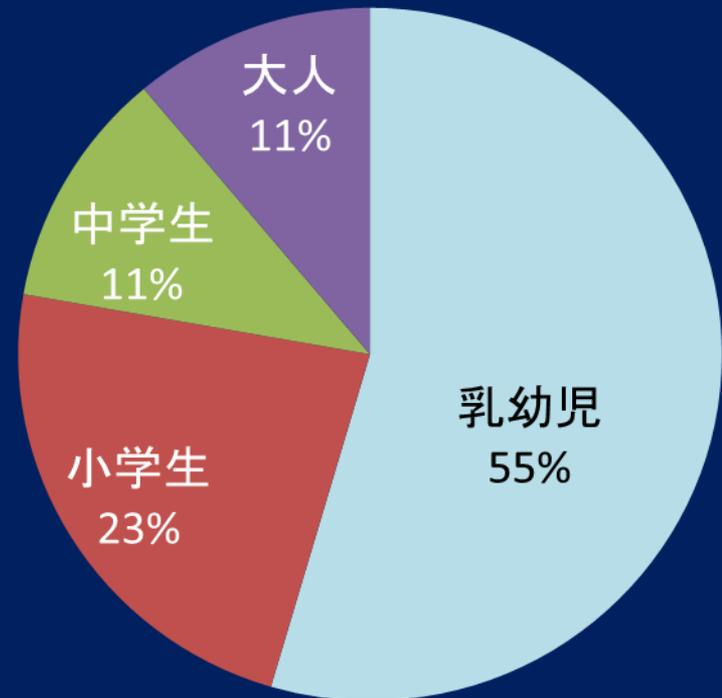
次ページ以降は東日本大震災の経験を報告

東日本大震災(2011年3月15日～12月末日) 救援要請内訳

(疾患名)

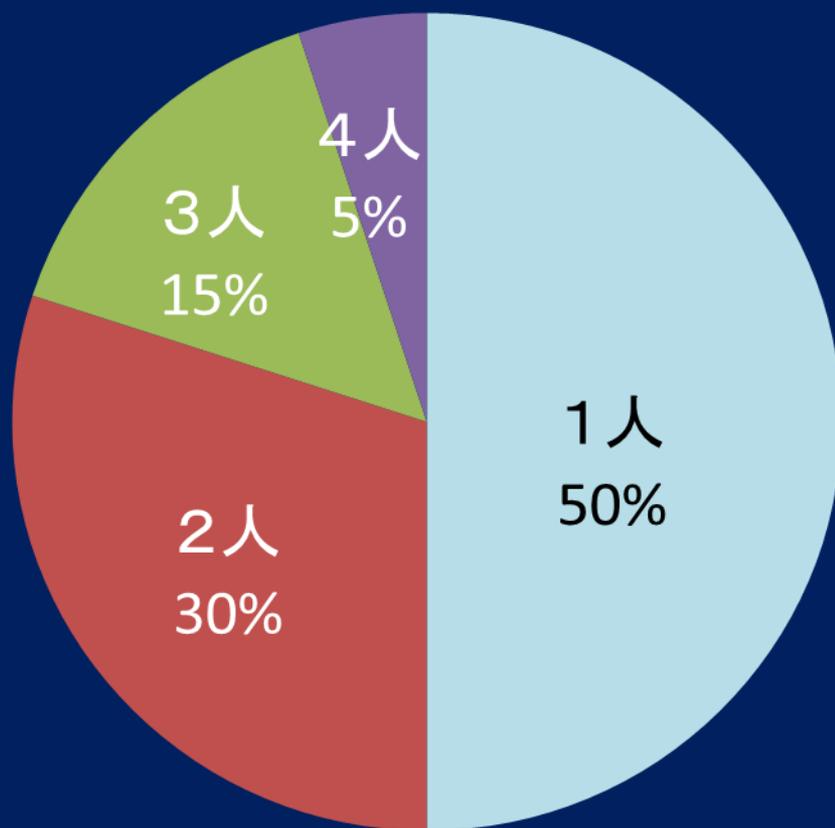


(年齢)



延べ患者数545人

東日本大震災救援要請・家族内患者数



家族数259家族

体調変化や困難の原因となったもの

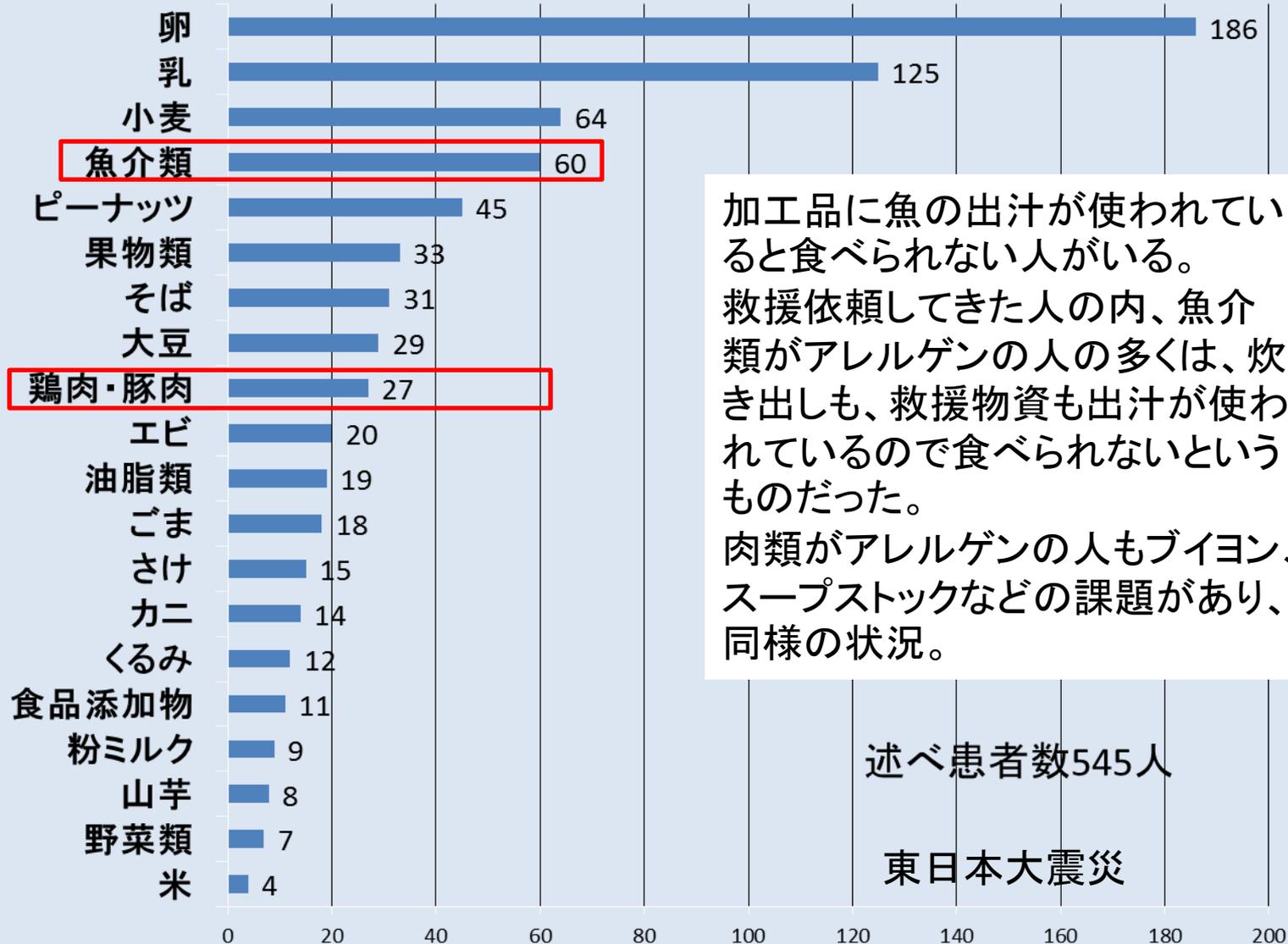
2011年	食物アレルギー	アトピー性皮膚炎	ぜんそく	全般
3月	・アレルギー用食物が手に入らない	・常備薬を失った (巡回医療が皮膚科に対応できない)	・常備薬を失った (巡回医療で対処した)	・ガソリン不足による移動困難
4月 5月	・給食対応が困難	・入浴困難 ・洗濯 ・着替え不備	・がれき撤去 ・復旧に伴う粉塵 ・ディーゼル排ガス	
6月	・二次避難先の食事対応不備	・汗対策困難 ・石鹼類が肌に合わない		
7月 8月	(熱中症の事例多数)			・季節変化
9月 10月	・生活困窮でアレルギー用食品の購入困難	・移動先のカビ ・ほこり ・室内空気環境の悪化	・移動先のカビ ・ほこり ・室内空気環境の悪化	・季節変化
11月 12月	・生活困窮でアレルギー用食品の購入困難	・皮膚の乾燥	・生活困窮でアレルギー用食品の購入困難 ・室内の防寒対策の不備	・寒冷

2011年	食物アレルギー患者用の食品群
3月 4月 5月	<p>非加熱 米粉パン、レトルト食品、離乳食、ジャム、米や雑穀で作った菓子類</p> <p>加熱必要 粉ミルク、ミルク用ミネラルウォーター</p>
6月	<p>給食代替品の惣菜（学校が再開された後、パンと牛乳の給食が続いた）</p> <p>梅干し、塩飴（原材料にアレルゲンを含まないものが必要だった）</p> <p>レトルト食品、離乳食（二次避難所は、アレルギー対応、離乳対応がなかった）</p> <p>ビーン、スープの素などの加工食品（避難所の統廃合・調理環境の変化）</p>
7月 8月	<p>（避難所に冷蔵庫が無い、野菜、果物が手に入らない）</p> <p>プチトマト、夏みかん、野菜ジュース缶、リンゴジュース缶、水</p> <p>6月と同様の食品群、粉ミルク</p>
9月 10月	<p>粉ミルク、離乳食、惣菜、レトルト、加工食品、飲料、菓子類</p> <p>（仮設住宅の近隣に店舗が無い・生活困窮の人からの要請もあった）</p>
11月 12月	<p>粉ミルク、離乳食、惣菜、加工食品、菓子類</p> <p>（仮設住宅の近隣に店舗が無い）</p>

私たちのアレルギー用受け入れ基準(チェックリスト)

- 専用工場で作っているか
- 特定原材料のアレルゲンコントロールの状況確認
- 原材料表示は「使用」レベルか「含む」レベルか
- 箱内にあるものは1種類か
- もし混載している場合は一般の食品として対処することに同意してもらえるか
- 詳細資料を当法人宛に送付してもらえるか
- 手作り品は一般の食品として対処することに同意してもらえるか

物資の救援を依頼した人のアレルギー食物



加工品に魚の出汁が使われていると食べられない人がいる。救援依頼してきた人の内、魚介類がアレルギーの人の多くは、炊き出しも、救援物資も出汁が使われているので食べられないというものだった。肉類がアレルギーの人にもブイヨン、スープストックなどの課題があり、同様の状況。

述べ患者数545人

東日本大震災

日常活動の調査で得た アレルギー情報

アンケート2010年実施

全国50カ所

0歳～16歳

食物アレルギー患者350人

調査実施(NPO法人アトピッ子地
球の子ネットワーク)

患者実態としては、肉がアレルギーという人はそんなに多くない



避難所や知人宅に一時避難している患者からの要請に応じて居場所に届ける。必要な人には居場所が変わっても届け続けた。

粉ミルクと食べ物1週間分



粉ミルクを2週間分



救援要請のあった個人の居場所へ
家族の人数、患者数、年齢、子どもの数に合わせて詰め合わせる

レトルト類とお菓子、2週間分



下に食物、上にお菓子類。
少人数の1週間分、火と水が
使えるようになった時期。

救援要請のあった個人の居場所へ
家族の人数、患者数、年齢、子どもの数に合わせて詰め合わせる



救援要請のあった個人の居場所へ
家族の人数、患者数、年齢、子どもの数に合わせて詰め合わせる



義援物資の石鹸類でアトピー
性皮膚炎が悪化したり、痒み
で眠れなくなってしまった患者
のために、低刺激の石鹸、洗
濯洗剤、シャンプーなどを送っ
た。↓



↑
夏、被災地で生の野菜が手に入
らない時期。箱で届けても崩れ
ないプチトマトと柑橘類を選ぶ。
アレルギー用のレトルト類1週間
分。

NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

〒169-0051東京都新宿区西早稲田1-9-19-207

TEL03-5948-7891 FAX03-5291-1392

事務所移転のため2016年12月より住所が変わりました。

〒169-0075東京都新宿区高田馬場1-34-12

竹内ローリエビル503

* 電話・FAXに変更はありません。

<http://www.atopicco.org>

食物アレルギー危機管理情報(FAICM)

<https://www.atopicco-foodallergy.org/>